

# 5

東京都江東区

## 東京都立大江戸高等学校

- 学科等/総合学科・3部制
- クラス数/20クラス
- 生徒数/503人
- 建築主/東京都
- 所在地/東京都江東区千石3-2-11
- 工事種別/新築
- 敷地面積/10,531㎡
- 延床面積/14,827㎡
- 竣工/2004年7月

### 多様な生徒の目標達成を支援する チャレンジスクール

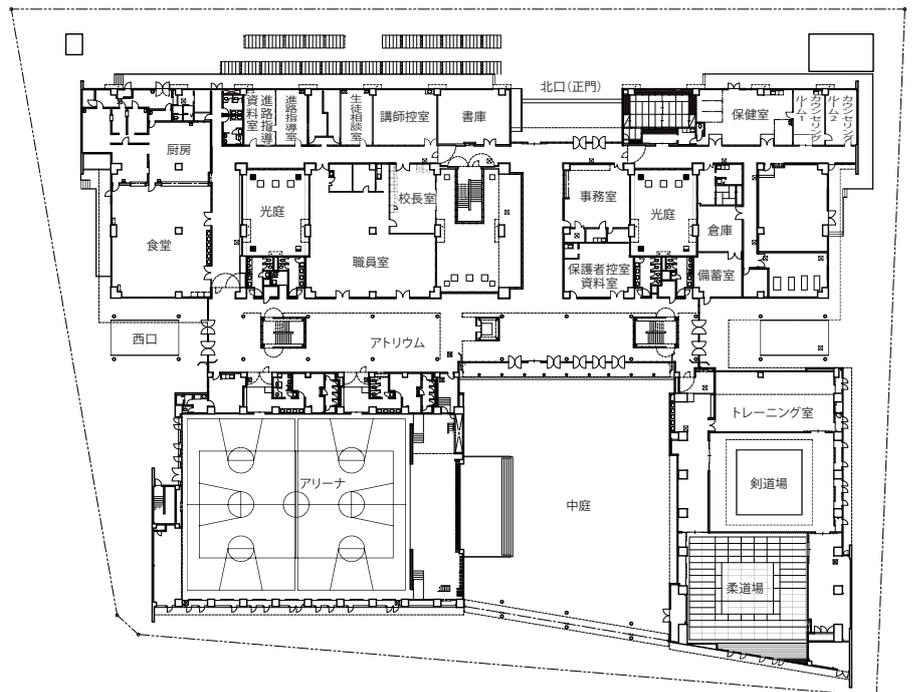
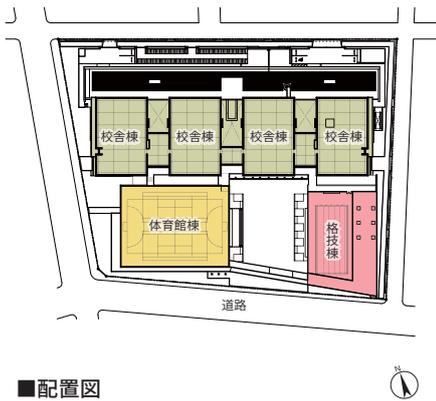
本校は柔軟で多様な教育を目指す新しいタイプの高等学校として、2004年に開校した。自分にあった時間帯(3部制)とペース(単位制)で生徒一人ひとりの目標やレベルに合った授業を学習できる環境が整っている。



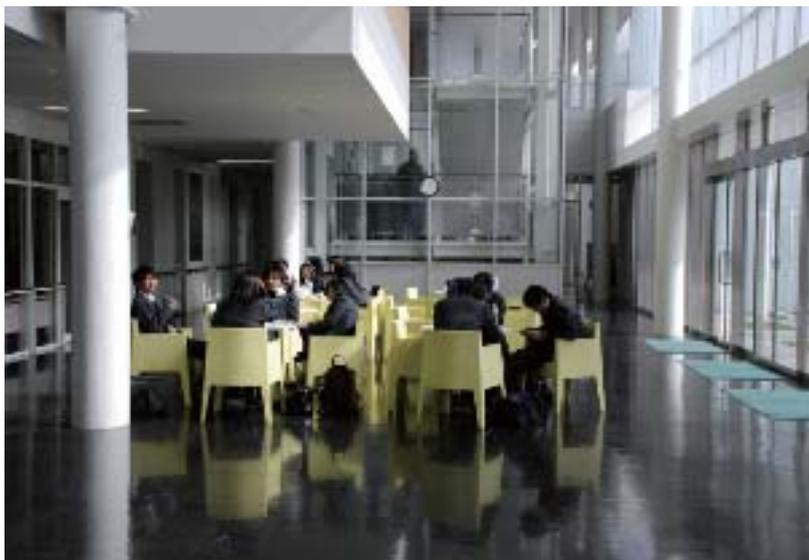
奥の建物が校舎棟、手前が体育館棟(屋上グラウンド)および格技棟(屋上プール)。

#### 計画に見られる 指針改訂のポイント

- 1.主体性を養う空間の充実
- 2.言語活動の充実
- 3.キャリア教育・職業教育の充実
- 4.特別支援教育の推進



## 1.主体性を養う空間の充実 「学習意欲と交流を促すコミュニケーションスペース



1 アトリウム。生徒同士の交流や飲食の場に使われている。



2 採光豊かな2階生徒ギャラリー。



3 2階図書室では、授業の空き時間や放課後にグループスタディを通じた交流が育まれている。



4 2階ラーニングスペースはアトリウムに面したオープンで明るい空間。グループスタディや休憩の合間に会話ははずむ。

## 校長の視点

### カウンセリング環境の充実

本校は、チャレンジスクールの一つで、小中学校時代に不登校を経験した生徒や高校を中退した生徒を含め、多様な生徒が学校生活を通じて自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校です。生徒は約14%が心療内科等の通院経験を持つことから、特にカウンセリングを重視しています。カウンセリングルーム2つを設置し、家庭と連携するために保護者控室も用意しました。カ

ウンセリングルームはスクールカウンセラーの個別相談の場としての利用のほか、3大学と連携して心理学科大学院生を派遣してもらい、生徒の話し相手として生徒の不安や悩みを和らげる場としても活用しています。年間延べ1,000人以上の生徒が利用しており、この対応があったから学校を続けられたという生徒が多数います。

アトリウムに面する職員室の間仕切りはすべて透明ガラスとなっており、教職員が登校した生徒の様子が見られるこ

と、生徒が担当教員の存在を確認できることなどコミュニケーションがとりやすく安心感を与える構造になっています。

(写真8～11)

## 2. 言語活動の充実 ↳ ディスカッションや発表など言語活動を支える施設



5 チャレンジ指定科目の一つ、ライフプランの発表会。プロジェクトやオーディオ設備を完備した2階視聴覚室を活用。

## 3. キャリア教育・職業教育の充実 ↳ 多様なコース選択と専門性を支える施設



6 総合学科伝統・文化系列の授業。座学と実習が一つの空間でできる。



7 2階ガイダンスルームには進学や就職の資料が整っており、パソコンでの検索もできる。

### 教職員の視点

#### 学校生活を支える空間

単位制高校に不可欠な居場所の確保として、3階吹抜けのアトリウムに80席以上の椅子とテーブルを配置しています。職員室に隣接しているため、生徒と教職員、生徒同士のコミュニケーションの場として活用されています。ほかに3、4階の吹抜けに生徒ギャラリー、2階に自習コーナー、さらには1階に中庭など、教室以外に生徒がくつろいだり

集まったりするスペースがふんだんにあります。また、校舎は廊下幅が広く、特別教室の廊下側の間仕切りがすべてガラス張りで開放感にあふれています。こうした配慮により、学校生活が不得手な生徒に対しても、居心地の良さを提供できています。(写真1~4)

#### キャリア教育のソフトとハード

チャレンジ指定科目の一つ、「産業社会と人間」で生徒たちはそれぞれの「ライ

フプラン」を作成します。興味・関心に応じた課題発見や職業調べを行い、個人やグループでディスカッションをし、1年次の最後に「ライフプラン発表会」を視聴覚室で行います。

進学や就職のガイダンスでは、充実した情報影響とともに、進路指導部の教員が具体的な相談に乗ります。ガイダンスルームでは4年次生はもちろん、誰もが将来や選択科目の参考に気軽に立ち寄れるオープンな雰囲気づくりをしています。

## 4. 特別支援教育の推進

「カウンセリングを重視し、相談しやすい環境づくりに配慮



8 職員室前のラウンジでは職員室がガラス張りであるため先生とすぐにコンタクトできる。



9 習熟度別少人数展開授業のために小さめの教室を多く配置



10 カウンセリングルームでは、木を基調とした家庭的なしつらえの中スクールカウンセラーや大学院生たちがきめ細かく対応。



11 カウンセリングルームと隣接する保健室。カウンセリングの予約や待合といった機能を連携している。

本校ではティームティーチングを導入していますが、複数の教員が関わることで教科内容だけでなくキャリアを含むさまざまな相談を受けるようになっていきます。(写真5、7)

### 個性や能力を育む施設整備

伝統文化系列、生活・福祉系列、情報・ビジネス系列の専門的な教科指導が可能な付帯設備を備えた特別教室が整備されています。

特に伝統文化実習室は、天井高5mを超える広々とした空間に江戸切子やべっ甲細工用の特注加工機械等を設置しています。指導を担当する伝統工芸士の市民講師の方から指導しやすいという評価をいただいています。

### 座学、実習、見学への対応

3階の生活実践室は、畳を敷いた和室スペースと講義スペースに分かれています。約20人の生徒を複数グループに

分け、茶道の授業では、半数の生徒が和室でお点前を演習し、残りの生徒が講義スペースで見学するなど、伝統文化に関する効果的な学習を展開できます。また、周囲の壁はガラス張りであり、教室に入らなくても廊下から授業の様子を見学できるようになっています。福祉多目的室では70人程度の生徒が同時に活動できる広い空間を取ることが可能です。(写真6)